

答申される登録(国登録有形文化財)候補物件の概要

今回、答申される登録候補物件の概要は、以下のとおりです。（※下線は用語解説あり）

旧野中外科（きゅうのなかげか） 2件

（1）名称

- ①旧野中外科 診療棟(きゅうのなかげか しんりょうとう)
- ②旧野中外科 病棟(きゅうのなかげか びょうとう)

（2）所在地

姫路市福中町

（3）概要

旧野中外科は、姫路駅北側に広がる商業地の一角に所在する。当地は、姫路城の外曲輪に含まれる旧城下町にあたり、昭和20年(1945)の姫路大空襲で、建物がほぼ焼失したエリアである。

もとは、濱中製鎖工業株式会社の創業者(濱中重太郎)により、銀行として建てられたが、未開業であったと伝わる。その後、野中家が取得、改修し、外科医院として開業した。旧西国街道に北面する敷地の北側に診療棟が建ち、その南に中庭を挟んで病棟が建つ。

①診療棟：昭和28年(1953)頃建設、同32年(1957)改修、同中期増築

木造二階建て、陸屋根鉄板葺きで、銀行店舗の転用と伝わる。正面西に張出した階段室に縦長の大窓を設けて垂直性を、正面東や東面には横長の窓を設けて水平性を表した意匠とする。一階は診療施設、二階は応接室とし、階段室に折鶴形照明を吊る。戦後復興期の建設で、木造建築と感じさせない、装飾を省いた外観がモダニズムの特徴を示し、「国土の歴史的景観に寄与しているもの」として評価された。

細部解説：外壁はモルタル洗い出し仕上げとし、内部は一階、二階共に中廊下型の機能的な平面構成とする。二階の座敷は「桜御殿」と呼ばれ、床柱に桜を用いる等、凝った意匠が残る。



外観 北東面



内部 2階座敷

②病棟：昭和 29 年(1954)建設、同 32 年(1957)増改築、同中期増築

木造二階建て、切妻造り、平入り、棧瓦葺きで、銀行用倉庫の転用と伝わる。内部は、病室に大きな引違い窓を配し、中廊下や階段にも窓を設け、採光と通風に配慮した計画とし、壁面や天井のプaster仕上げの白色、額縁や巾木の水色の塗装が、清潔感のある、柔らかな空間を演出する。昭和戦後の地域医療を支えた病棟で、「国土の歴史的景観に寄与しているもの」として評価された。

細部解説：外壁はリシン掻落し仕上げとし、内部は各階東西に中廊下を通し、一階は個室、二階は大部屋の病室、北西に便所や浴室などを配置する。



外観 北面

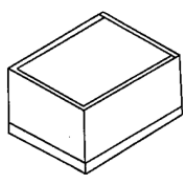


内部 2階病室

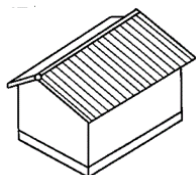
<参考>

※用語解説	
陸屋根(ろくやね)	水平または勾配が極めて小さい屋根。
モダニズム	過去の伝統的な装飾などを排除し、機能的な平面・立面を追求しようとする考え方。
モルタル洗い出し仕上げ	種石を入れたモルタルを練り、それが硬化しないうちにその表面を水洗いし、種石を表面に浮き出させる仕上方法。
中廊下(なかろうか)	両側に部屋などを配置した廊下。
切妻(きりづま)造り	切妻屋根(棟を頂点としてふたつの傾斜面が合わさった山形の屋根)とした建物の形式。傾斜の付いた屋根側を平側、その端側を妻側という。
平入(ひらい)り	建物の平側(基本的に長手側)を出入口とした形式。
棧瓦葺(さんがわらぶ)き	丸瓦と平瓦を一つにした「棧瓦」を使用した屋根の葺き方。
プaster仕上げ	鉋物質の粉末と水とを練り混ぜて塗る仕上方法。
リシン掻(かき)落し仕上げ	リシン(塗料の一種)などの塗面がやや硬化した頃合いに、櫛状の金具で表面を削り落とす仕上方法。

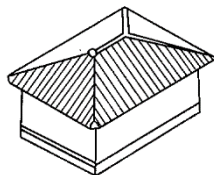
屋根の形式 ー建築用語図解辞典よりー(■ 今回関連の図)



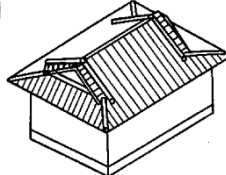
■陸屋根



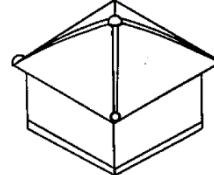
■切妻屋根



寄棟屋根



入母屋屋根



宝形屋根